

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	日曹スミトップM粉剤
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
担当部門	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
FAX 番号	03-4212-9676
緊急連絡先情報	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
SDS 作成日	1995年06月02日
改訂日	2025年02月12日(09版)
推奨用途	農薬
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（神経系）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器系、免疫系、腎臓）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（神経系）
環境有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 1
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分 1

ラベル要素

絵表示（GHS JP）



注意喚起語（GHS JP）

： 危険

危険有害性（GHS JP）

： 眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害のおそれ（神経系）
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器系、免疫系、腎臓）

管理番号：N0-4770101

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（神経系）
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き (GHS JP)

安全対策

- ： 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 粉じんを吸入しないこと。
- 取扱い後は手、顔をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 環境への放出を避けること。
- 適切な保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

- ： 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
- 漏出物を回収すること。

保管

- ： 施錠して保管すること。

廃棄

- ： 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート	3.0	C9H12NO5 PS	(3)-2616	4-(9)-232	122-14-5
ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート]	2.0	C12H14N4 O4S2 (末尾に記載)	適用外(農薬)	4-(13)-80	23564-05-8
結晶質シリカ	85.9	O2Si	(1)-548	なし(公表化学物質扱い)	14808-60-7
酸化アルミニウム	4.52	Al2O3	(1)-23	1-(3)-477	1344-28-1
含水非晶質二酸化ケイ素	2.46	O _n Si	(1)-548	なし(公表化学物質扱い)	112926-00-8
乾燥ケイソウ土	0.6	O2Si _n	該当しない	なし(公表化学物質扱い)	61790-53-2
[α -ヒドロ- ω -スルホオキシポリ(オキシエチレン)のアルキル(C=14~18)エーテル]のナトリウム塩	0.05	-	-	-	68187-52-0
α -ヘキサデシル- ω -ヒドロキシポリ(オキシエチレン)	0.04	(C2H4O) _n C16H34O	7-97	なし(公表化学物質扱い)	9004-95-9

《その他》

CAS No.	企業秘密につき記載せず
含有量	残り
化審法	適用外又は既存化学物質
安衛法	適用外又は既存化学物質

《0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェートの別名》

フェニトロチオン

《ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミナルホノチアル)]ビス[カーバメート]の別名》

チオファネートメチル

ジメチル4,4'- (オルト-フェニレン)ビス(3-チオアロファナート)

《結晶質シリカの別名》

石英

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類、靴を直ちに脱ぐこと。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 水で口の中をよく洗う。 直ちに医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療	: 対症的に治療すること。
-------------------	---------------

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 霧状の水、炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	: 棒状放水。
火災危険性	: 加熱により危険有害性ガスを放出することがある。
消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 消火作業は風上から行う。 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。 移動できない場合、容器に放水し、冷却する。
消火時の保護具	: 自給式呼吸器および化学物質用防護服を着用する。 風上に立ち蒸気を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- ： 作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。
 - 人を退避させ、飛散・漏出した周辺にロープを張り、「立入禁止」及び「火気厳禁」の措置を行う。
 - 眼、皮膚、衣類につけないこと。
 - 粉塵を吸入しないこと。
 - 十分な換気を確保する。
 - 風上から近づく。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- ： 排水溝または水路への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法
- ： 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。必要なら砂等をまいてできるだけ回収する。
- 二次災害の防止策
- ： 炎や火花の禁止。発火源をすべて断つ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- ： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項
- ： 作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。
 - 眼、皮膚、衣類につけないこと。
 - 粉じんを吸入しないこと。
 - 取扱い後はよく手、顔を洗うこと。
 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 - 使用前に取扱説明書を入手すること。
 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - 作業所の十分な換気を確保する。
- 接触回避
- ： 「10. 安定性及び反応性」を参照のこと。

保管

- 安全な保管条件
- ： 密閉容器に保管すること。
 - 直射日光を避け、換気の良い、乾燥した冷暗所に保管すること。
 - 施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料
- ： データなし

8. ばく露防止及び保護措置

0,0-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	フェニトロチオン # Fenitrothion
許容濃度	0.2 mg/m ³
特記事項 (JP)	経皮吸収; 感作性分類 皮膚 2
規則参照	許容濃度等の勧告 (2023 年度) 産衛誌 65 巻
結晶質シリカ (14808-60-7)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	結晶質シリカ
許容濃度	0.03 mg/m ³ (吸入性粉塵)
特記事項 (JP)	発がん性分類 1
規則参照	許容濃度等の勧告 (2023 年度) 産衛誌 65 巻
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	第 1 種粉塵 (酸化アルミニウム) # Dusts Class 1 (Aluminum oxide)
許容濃度	0.5 mg/m ³ 吸入性粉塵 2 mg/m ³ 総粉塵
規則参照	JCDB の調査による
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	第 1 種粉塵 (ケイソウ土) # Dusts Class 1 (Kieselguhr)
許容濃度	0.5 mg/m ³ 吸入性粉塵 2 mg/m ³ 総粉塵
規則参照	JCDB の調査による

設備対策

: 屋内使用の場合、装置を密閉化し、局所排気装置又は全体排気装置を設置する、取扱い場所の近くに、シャワー・洗眼器を設置する。

保護具

呼吸用保護具

: 防塵マスク

手の保護具

: ゴム・塩ビ等の不浸透性手袋

眼の保護具

: ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

: 材質を特定しないが、長袖・長ズボン

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
形状	: 粉末
色	: 類白色
臭い	: データなし

pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
かさ密度	: 0.5 - 0.7 g/cm ³ (農薬公定検査法)
溶解度	: 水: 不溶
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし。
化学的安定性	: 通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	: 情報なし。
避けるべき条件	: 直射日光。熱。高温。高湿。
混触危険物質	: 強酸化剤。有機過酸化物。
危険有害な分解生成物	: 加熱により危険有害性ガスを放出することがある。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

日曹スミトップM粉剤	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg (♀)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (♂♀)
0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
LD50 経口	330 mg/kg
LD50 経皮 ラット	890 mg/kg
LD50 経皮	1200 mg/kg

ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミノカルボノチオール)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	1.7 mg/1/4h (♂)、1.9mg/1/4h (♀)

酸化アルミニウム (1344-28-1)	
LD50 経口	5000 mg/kg

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
LD50 経口	5110 mg/kg
LD50 経皮	5000 mg/kg

乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
LD50 経口	5000 mg/kg
LD50 経皮	2500 mg/kg

皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分に該当しない
刺激性なし(ウサギ)

0,0-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において皮膚刺激性は認められなかったとの報告 (EHC 133 (1992)、食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014)) から区分外とした。今回の調査で入手した情報をもとに区分を見直した。

ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミノカルボノチオール)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
皮膚腐食性/刺激性	刺激性なし (ウサギ)

結晶質シリカ (14808-60-7)	
皮膚腐食性/刺激性	データ不足のため分類できない。

酸化アルミニウム (1344-28-1)	
皮膚腐食性/刺激性	データがなく分類できない。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404) において、沈降シリカ (Sident9) を適用した結果、刺激性はみられなかったとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) や、沈降シリカ (SIPERNAT) をウサギに 24 時間適用した試験において、いずれも刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、ウサギにシリカゲル (Syloid 244) を 24 時間適用した結果、刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006))。以上から、区分外とした。

乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質を 24 時間適用した結果、刺激はみられなかったとの報告 (農薬技術情報 (1992)) から区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 眼刺激
弱い刺激性(ウサギ)

0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質を適用後に洗眼しない場合、適用後1時間で結膜における軽度の充血を生じたが48時間後には回復し本物質の刺激性は軽度であるとの報告 (EHC 133 (1992))、眼刺激性は軽度又は刺激性は認めなかったとの報告 (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014)) から、軽度の刺激性と判断し区分2Bとした。今回の調査で入手した情報をもとに区分を見直した。
ジメチル[1,2-フェニルビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	非常に弱い刺激性 (ウサギ)
結晶質シリカ (14808-60-7)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	データ不足のため分類できない。
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	データがなく分類できない。
含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、沈降シリカ (Sident9) を適用した結果、軽度の結膜発赤がみられたが回復性を示したとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、沈降シリカをウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜刺激がみられたが回復したとの報告がある (SIDS (2006))。以上から、区分2Bとした。
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質100mgを適用した結果、非常に軽度の刺激性がみられたが2日目までに回復したとの報告がある (農薬技術情報 (1992)) が、分類するための十分な情報ではないと判断した。
呼吸器感受性	: 分類できない
皮膚感受性	: 区分に該当しない 感受性なし (モルモット)
0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた吸入感受性試験において、本物質はアレルギー性喘息の惹起作用を有しないと考えられたとの記載 (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014)、PATTY (6th, 2012)) があるが、詳細が不明のため分類できないとした。旧分類が使用した農薬抄録 (1993) は入手できず、今回の調査で入手した情報に基づき区分を見直した。
皮膚感受性	モルモットを用いた皮膚感受性試験 (マキシマイゼーション法) で、本物質の5%溶液による惹起では陽性率70% (惹起後24、48時間後とも) で、0.5%溶液による惹起では陽性率30% (24時間後) 及び40% (48時間後) と高い陽性率を示したとの報告 (EHC 133 (1992)) がある。又、モルモットを用いたランドシュタイナー・ドレイズ法による試験で皮膚感受性は陰性との報告 (EHC 133 (1992)、食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014)) がある。より感度の高いマキシマイゼーション法の試験結果を優先し、区分1とした。旧分類が使用した農薬抄録 (1993) は入手できず、今回の調査で入手した情報に基づき区分を見直した。
ジメチル[1,2-フェニルビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
皮膚感受性	弱い感受性 (モルモット) 試験レポートのスコア値から、区分1とした。

結晶質シリカ (14808-60-7)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
呼吸器感作性	いずれもデータがなく分類できない。
皮膚感作性	いずれもデータがなく分類できない。
含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: 遺伝性疾患のおそれの疑い
0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できないとした。すなわち、in vivoでは、ラット、マウスの優性致死試験、小核試験、染色体異常試験、ラットの肝細胞を用いた不定期DNA合成試験でいずれも陰性 (EHC 133 (1992)、食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験でネズミチフス菌 TA100に陽性であるが、他の菌株では陰性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (EHC 133 (1992)、食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))。ネズミチフス菌 TA100の陽性結果については、TA100がもつニトロレダクターゼに起因するものと推定されている (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))。
ジメチル[1,2-フェニルビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)、(2)より、本物質はin vitroおよびin vivoの異数性誘発物質と考えられたため、区分2とした。新たな情報源を追加し、分類結果を変更した。【根拠データ】(1) In vivoでは、マウス (B6D2F1)の骨髄細胞を用いた小核試験 (単回強制経口投与) で陽性、系統の異なるマウス (ICR) を用いた骨髄細胞を用いた小核試験 (2回強制経口投与) 及び染色体異常試験 (単回強制経口投与) で陰性、マウス (ICR) の精原細胞を用いた生殖細胞変異原性試験、マウス (ICR) の精巣及び骨髄細胞を用いた小核試験 (同) の結果はいずれも陰性であった。以上はすべてGLP適合のガイドライン試験結果である (REACH登録情報 (Accessed July 2021)、CLH Report (2018))。(2) In vitroでは、細菌復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験及び遺伝子突然変異試験で陰性、ヒトリンパ球を用いた小核試験で陽性 (-S9) の結果が得られている。以上もすべてGLP適合のガイドライン試験結果である (Accessed July 2021)、CLH Report (2018))。【参考データ等】(3) EU CLPでは、本物質はMuta. 2に分類されている。CLH Report (2018)によるMuta. 1Bへの変更提案に対し、ECHA RACは却下しMuta. 2を維持すると結論した (ECHA RAC Opinion (2019))。

結晶質シリカ (14808-60-7)	
生殖細胞変異原性	In vivo では、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いた hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の hprt 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分2とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
生殖細胞変異原性	in vivo 変異原性試験が実施されておらず、in vitro 変異原性試験においてもエームズ試験 (陰性) のみであり、データ不足により分類できないとした。
含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できないとした。すなわち、in vivo では、経口投与あるいは吸入ばく露によるラットの優性致死試験、遺伝子突然変異試験、染色体異常試験でいずれも陰性 (SIDS (2006))、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、哺乳類培養細胞の小核試験であいまいな結果である (SIDS (2006))。
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	: 発がんのおそれ
0,0-ジメチル0-(3-メチル4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
発がん性	ラット又はマウスに2年間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験、及びマウスに18ヵ月間混餌投与した発がん性試験において、マウス2年間混餌投与試験では100 ppm の雄で肝細胞腺腫の頻度に有意な増加 (対照群 16/50 例に対して 27/50 例) がみられたが、用量相関性がなく、投与による影響と考えられなかった。その他、いずれの試験においても腫瘍性病変の頻度増加はみられず、発がん性はないと結論された (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))。EPA は本物質の発がん性をグループ E (Evidence of non-carcinogenicity for humans) に分類した (EPA Pesticide (1995))。以上より、区分外とした。
ジメチル[1,2-フェニルビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
発がん性	陰性 (マウス)、陰性 (ラット)

結晶質シリカ (14808-60-7)	
発がん性	多くの疫学研究結果において、本物質（石英）を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した（IARC 100C (2012)、SIDS (2013)）。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている（IARC 100C (2012)）。一方、実験動物では雌雄ラットに本物質（空気力学的中央粒子径（MMAD）：1.3 μm）を1 mg/m ³ で2年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質（MMAD：2.24 μm）を12 mg/m ³ で83週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質（MMAD：1.8 μm）を6.1、30.6 mg/m ³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた（IARC 100c (2012)）。以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ 1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない（IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012)）。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第1群」に（産衛学会勧告 (2015)）、ACGIH が2004年以降「A2」に（ACGIH (7th, 2006)）、NTP が結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している（NTP RoC (13th, 2014)）。よって、本項は区分 1A とした。

酸化アルミニウム (1344-28-1)	
発がん性	ACGIH で A4 に分類されていることより区分外とした。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
発がん性	本物質は合成型非晶質シリカに分類される（IARC 68 (1997)）。ヒトでの合成型非晶質シリカばく露による発がん性情報はない。しかし、IARC は非晶質シリカ全体（本物質以外に珪藻土、生物起源のシリカ繊維も含む）に対し、発がん性に関する証拠はヒトで不十分、実験動物で合成型非晶質シリカに対する証拠も不十分（後述）として、非晶質シリカ全体に対して発がん性分類を「グループ 3」とした（IARC 68 (1997)）。よって、本物質も IARC の評価に従い、分類できないとした。なお、非晶質シリカに関するヒト発がん性関連の情報としては、生物起源の非晶質シリカ繊維にばく露された3つの地域社会を対象とした症例対照研究において、シリカばく露と中皮腫発生との間に相関はみられなかったとの報告がある（IARC 68 (1997)）。一方、実験動物では、ラットに本物質又は酸化第二鉄を単独、或いは両者の1:1混合物を各々500 mg/匹の用量で1年間吸入ばく露した結果、生存率は対照群と投与各群との間で大差はなく、10ヶ月以上の生存例における肺腫瘍（腺腫、がん）発生率は対照群で7.9～9.6%（5/53～5/52）、本物質単独投与群で21.3%（13/61）、酸化第二鉄単独投与群で32.7%（17/52）、混合物投与群で19.3%（12/62）であった（IARC 68 (1997)）。一方、経口経路による発がん性関連情報として、合成非晶質のシリカゲル（Syloid 244）をラット又はマウスに2年間混餌投与した結果、50,000 ppm までの用量で、主要臓器に腫瘍性変化、非腫瘍性変化ともにみられなかった（ECETOC JACC (2006)、IARC 68 (1997)）との記述がある。
IARC グループ	分類できない

生殖毒性 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
生殖毒性	ラットに最大 60 ppm を混餌投与した 1 世代試験では、F0 親動物、F1 児動物ともに影響はみられなかった（食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書（2014））。しかし、ラットに最大 120 ppm を混餌投与した 2 世代試験において、親動物には F1 雌（40 ppm で体重増加抑制、120 ppm で軟便、振戦）を除く F0、F1 の雌雄 120 ppm で体重増加抑制がみられ、F1、F2 児動物ともに 120 ppm で体重増加抑制、一般状態の悪化に加えて死亡児数の増加、4 日生存率低下、離乳率の低下がみられた（食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書（2014））。また、ラットに最大 150/100 ppm（F1 離乳後以降 150 ppm から 100 ppm に減量）を混餌投与した 3 世代試験では、高用量（150/100 ppm）で F0、F1、F2 親動物に体重増加抑制、F1、F2、F3 児動物に離乳時生存率の低下がみられた（食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書（2014））。一方、妊娠ラット、又は妊娠ウサギの器官形成期に強制経口投与した発生毒性試験では、母動物に明らかな一般毒性影響（体重増加抑制、振戦など（ラット）、死亡、体重増加抑制、流産（ウサギ））がみられる用量においても、胎児に発生影響はみられなかった（食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書（2014）、PATTY（6th, 2012）、EPA Pesticide（1995））。以上、ラットを用いた 2 世代及び 3 世代試験において、親動物に一般毒性影響がみられる用量で児動物に生存率の低下がみられたことから、本項は区分 2 とした。なお、旧分類（区分外）以降の新しい情報源に基づいたため、分類結果が変わった。
ジメチル[1,2-フェニルピス(イミノカルボノイル)]ピス[カーハート] (23564-05-8)	
生殖毒性	催奇形性試験：陰性（ラット）、陰性（ウサギ）
結晶質シリカ (14808-60-7)	
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
生殖毒性	データがなく分類できない。
含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報はない。実験動物では合成非晶質シリカゲル（Syloid 244）をラット、マウス、ハムスター、及びウサギの各妊娠雌動物の器官形成期に強制経口投与した催奇形性試験において、いずれの動物種でも、1,340～1,600 mg/kg/day の用量を投与しても、母動物毒性、胎児毒性、催奇形性のいずれも認められなかったとの報告がある（ECETOC JACC（2006））。しかしながら、性機能、及び生殖能への本物質投与による影響については試験報告がなく、本項はデータ不足のため「分類できない」とした。
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
生殖毒性	データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害のおそれ(神経系)

0,0-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質は有機リン系殺虫剤であり、コリンエステラーゼを阻害する (JMPR (1970)、食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))。ヒトでは、本物質の事故または自殺企図による急性経口摂取の中毒症状として、初期に疲労感、頭痛、脱力感、錯乱、嘔吐、腹痛、大量の発汗、流涎、瞳孔収縮が起こる。肺のうっ血あるいは呼吸筋の脱力による呼吸困難を生じる場合もある。重症の場合には筋肉痙攣、意識喪失、痙攣を起こして呼吸不全により死に至る場合もあるとの報告がある (EHC 133 (1992))。実験動物では、ラットの単回経口、経皮又は吸入ばく露試験で、自発運動減少、不規則呼吸、呼吸困難、運動失調、流涎、振戦、攣縮、間代性痙攣、眼球突出、立毛及び流涙が認められたとの報告がある。動物試験での神経系への影響は区分1範囲の50 mg/kg以上で認められた (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書 (2014))。以上より区分1 (神経系) とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	臓器の障害 (神経系)

結晶質シリカ (14808-60-7)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。なお、旧分類のヒトにおける呼吸器影響のデータは短期ばく露であり、単回急性影響のデータではない。

酸化アルミニウム (1344-28-1)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	上気道刺激性 (ICSC (2000)) の記載より区分3 (気道刺激性) に分類した。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	シリカゲル (Syloid 244) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) から、区分3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ

乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期間にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系, 免疫系, 腎臓)
長期間にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (神経系)

0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた90日間混餌投与毒性試験において、区分1のガイダンス値の範囲内である60 ppm (雄: 3.05~5.88 mg/kg/day、雌: 3.96~5.96 mg/kg/day) 以上で赤血球・脳コリンエステラーゼ活性阻害(20%以上)、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm (雄: 10.6~18.5 mg/kg/day、雌: 14.9~20.7 mg/kg/day) で前後肢握力低下、このほかラットを用いた6ヵ月間混餌投与毒性試験、ラット・イヌ・サルを用いた2年間混餌投与毒性試験においても区分1のガイダンス値の範囲内で赤血球・脳コリンエステラーゼ活性阻害(20%以上)がみられている。また、ラットを用いた28日間吸入毒性試験(2時間/日、5~6日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である0.015 mg/L(90日換算: 0.0016 mg/L)以上で赤血球・脳コリンエステラーゼ活性阻害(20%以上)、卵巣の絶対及び相対重量減少、マウスを用いた28日間吸入毒性試験(2時間/日、5~6日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である0.062 mg/L(90日換算: 0.0064 mg/L)で脳コリンエステラーゼ活性阻害(20%以上)がみられている(食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書(2014))。以上より区分1(神経系)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(神経系)
ジメチル[1,2-フェニルピス(イミカルボノチオイル)]ピス[カーバメート] (23564-05-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	LOAEL(ラット): 雄 155.0 mg/kg/day、雌 173.4 mg/kg/day(90日間)
結晶質シリカ (14808-60-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響(珪肺症、肺がん、肺結核)が確認されている。このほか、自己免疫疾患(強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎)、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている(SIDS(2013)、CICAD 24(2000)、DFGOT vol. 14(2000))。この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている(SIDS(2013))。実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている(SIDS(2013))。したがって、区分1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系、免疫系、腎臓)
酸化アルミニウム (1344-28-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	酸化アルミニウムの職業暴露により、肺に腺維症が認められた(EHC(1997))との記載より区分1に分類した。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肺)

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトにおいては、本物質のダストに平均8.5年間ばく露された労働者の肺機能及び胸部レントゲン検査に有害影響はみられなかったとの報告がある(ACGIH(7th, 2001)、ECETOC JACC(2006)、SIDS(2006)、DFGOT vol. 2(1991))。実験動物については、ラット、モルモット、ウサギに本物質126 mg/m ³ をラットでは1年間、モルモット及びウサギでは2年間吸入ばく露した試験において、肺線維症の発症はみられておらず、反応はマクロファージ蓄積と細網線維の軽度増殖に限定されたとの報告がある(ACGIH(7th, 2001))。マウスを用いた21ヶ月間混餌投与試験、ラットを用いた24ヶ月間混餌投与試験において毒性影響はみられていない(ECETOC JACC(2006))。サル、ラット、モルモットに本物質15 mg/m ³ を12~18ヶ月間吸入ばく露した試験において、肺の単球細胞増加、細網線維の増加がみられたとの報告がある(DFGOT vol. 2(1991))。以上のようにヒトにおいて影響はみられず、実験動物においては、吸入経路において軽微な影響のみみられ、経口経路では影響はみられていない。したがって、分類できないとした。
乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについては、珪藻土にばく露された労働者で塵肺症の報告があるが、他の石英ダストへのばく露が不明であったり、珪藻土の焼成によりクリストバライトが生じること、珪藻土中に結晶質シリカが含まれること等、塵肺症が珪藻土によるものと断定できないとの報告がある(DFGOT vol. 2(1991))、未焼成のダストにばく露された珪藻土の作業員において、軽度の珪肺症のみがみられたとの報告がある(ACGIH(7th, 2001))。また、粗製の珪藻土あるいは天然の粉に20~25年間ばく露された労働者の研究では、肺の線維症を起こすのはまれであり、あったとしても症状のみで明らかな障害はみられていない。天然の珪藻土自体は弱い線維形成性あるいは非線維形成性であり、肺の線維症は結晶質シリカあるいは肺の過負荷に起因したものと考えられるとの報告がある(ACGIH(7th, 2001))。実験動物では、モルモットに非晶質シリカとして100 mg/m ³ の珪藻土、結晶質シリカとして150 mg/m ³ のクリストバライトを2年間吸入ばく露した試験において結晶質シリカであるクリストバライトは21ヶ月で線維症がみられ、24ヶ月で重篤化がみられたのに比べ、非晶質シリカである珪藻土は24ヶ月で線維化がみられたが、重篤化はみられていない(ACGIH(7th, 2001))。また、モルモットに60mg/m ³ の非焼成の珪藻土を37~50週間吸入ばく露した試験において、マクロファージの浸潤、ダスト粒子を含んだ多数の多核細胞の蓄積による肺胞中隔の肥厚、及び肺胞の上皮化がみられたが、肺の線維化はみられず、極めてわずかな細網線維量の増加がみられたが膠原線維の有意な増加はみられていない(ACGIH(7th, 2001))。以上のように、ヒトについては結晶質シリカを含まない珪藻土単体での影響については明確ではないが、結晶質シリカを含んだ珪藻土については肺への影響が考えられる。また、実験動物において、程度は軽いものの区分2の範囲で肺に影響がみられている。本物質は結晶質シリカを含むことから区分1(呼吸器)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系)

誤えん有害性 : 分類できない

0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
結晶質シリカ (14808-60-7)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

酸化アルミニウム (1344-28-1)	
誤えん有害性	データがなく分類できない。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

乾燥ケイソウ土 (61790-53-2)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 短期（急性）：水生生物に非常に強い毒性
 水生環境有害性 長期（慢性）：長期継続の影響によって水生生物に非常に強い毒性

日曹スミトップM粉剤	
LC50 - 魚 [1]	136 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	0.0571 mg/l (Daphnia magna、48hr)
ErC50 藻類	70.6 mg/l (96hr)

0,0-ジメチル0-(3-メチル4-ニトロフェニル)チオホスフェート (122-14-5)	
EC50 - 甲殻類 [1]	0.000021 mg/l
NOEC 甲殻類 慢性	0.000009 mg/l

ジメチル[1,2-フェニルビス(イミノカルボノイル)]ビス[カーバメート] (23564-05-8)	
LC50 - 魚 [1]	1.07 mg/l (ニジマス、96hr)
LC50 - 魚 [2]	> 62.9 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	5.4 mg/l (Daphnia magna、48hr)
ErC50 藻類	> 25.4 mg/l (緑藻、72hr)
NOEC 魚 慢性	0.32 mg/l (ニジマス、28days)
NOEC 甲殻類 慢性	0.18 mg/l (Daphnia magna、21days)
NOEC 藻類 慢性	4.38 ppm (P.subcapitata、72hr)

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l

残留性・分解性

日曹スミトップM粉剤	
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性

日曹スミトップM粉剤	
生体蓄積性	データなし
ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミナルホ [®] ノチオイル)]ビス[カーハ [®] メト] (23564-05-8)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.44

土壌中の移動性

日曹スミトップM粉剤	
土壌中の移動性	データなし
ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミナルホ [®] ノチオイル)]ビス[カーハ [®] メト] (23564-05-8)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.44

オゾン層への有害性

- オゾン層への有害性 : 分類できない
- オゾン層への影響 : モントリオール議定書に指定された物質を含有しない。
- その他の有害な影響 : 追加情報なし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
処理を外部に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

- 海上規制情報 : IMOの規定に従う。
- 航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
- 国連番号 : 3077
- 正式輸送品名 : 環境有害物質(固体) (0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート ; ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミナルホ[®]ノチオイル)]ビス[カーハ[®]メト])
- 容器等級 : III
- 輸送危険物分類 : 9
- 国連分類 : 9
- 海洋汚染物質 :



適用される

国内規制

海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
特別な輸送上の注意	: 荷役中の取扱いは慎重丁寧に行い、転倒・落下・衝撃等により容器を傷め、内容物を飛散させてはならない。 輸送中は、直射日光や雨水の浸透を防止するため、被覆すると共に、容器を動揺、摩擦、転倒、落下が起らないように積載・輸送する。
その他の情報	: 補足情報なし。
緊急時応急措置指針番号	: 171

15. 適用法令

国内法令

化審法	: 優先評価化学物質（法第2条第5項） α-（アルキル（C=10～16））-ω-（スルホオキシ）ポリ〔（オキシエチレン）（又はオキシエチレン／オキシ（メチルエチレン））〕のオニウム塩又はナトリウム塩（繰り返し単位の繰り返し数の平均が1～4のものに限る。） [α-（アルキル（C=16～18））-ω-ヒドロキシポリ（オキシエタン-1，2-ジイル）又はα-（アルケニル（C=16～18））-ω-ヒドロキシポリ（オキシエタン-1，2-ジイル）]（数平均分子量が1，000未満のものに限る。）
労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9） チオリン酸O，O-ジメチル-O-（3-メチル-4-ニトロフェニル）（別名フェニトロチオン）（政令番号：349） 結晶質シリカ（政令番号：165の2） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9） チオリン酸O，O-ジメチル-O-（3-メチル-4-ニトロフェニル）（別名フェニトロチオン） 結晶質シリカ がん原性物質（安衛則第577条の2第5項、令和4年12月26日告示第371号、令和4年12月26日基発1226第4号） 結晶質シリカ 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧） チオリン酸O，O-ジメチル-O-（3-メチル-4-ニトロフェニル）（別名フェニトロチオン） ジメチル4，4'-（オルト-フェニレン）ビス（3-チオアロファナート）（別名チオファネートメチル） 皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質（安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧） チオリン酸O，O-ジメチル-O-（3-メチル-4-ニトロフェニル）（別名フェニトロチオン） 【改正後 令和7年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2） ジメチル=4，4'-（オルト-フェニレン）ビス（3-チオアロファナート）（別名チオファネートメチル） 【改正後 令和8年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2） チオリン酸O，O-ジメチル-O-（3-メチル-4-ニトロフェニル）（別名フェニトロチオン）

ェニル) (別名フェニトロチオン)

非晶質シリカ (シリカゲル及び沈降シリカに限る。)

【改正後 令和7年4月1日以降】

名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

ジメチル=4, 4' - (オルトフェニレン) ビス (3-チオアロファナート) (別名チオファネートメチル)

【改正後 令和8年4月1日以降】

名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

非晶質シリカ (シリカゲル及び沈降シリカに限る。)

毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	非該当
船舶安全法	:	有害性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	:	その他の有害物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	:	第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1) チオりん酸O, O-ジメチル-O- (3-メチル-4-ニトロフェニル) (別名フェニトロチオン又はMEP) (管理番号: 251) (3.0%) ジメチル=4, 4' - (オルトフェニレン) ビス (3-チオアロファナート) (別名チオファネートメチル) (管理番号: 229) (2.0%)
農薬取締法	:	該当

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

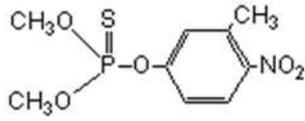
中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒110番 365日24時間対応
一般市民専用電話 (情報料無料)
(大阪) 072-727-2499 (つくば) 029-852-9999

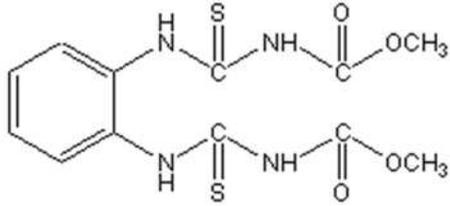
医療機関専用有料電話 (1件2000円)
(大阪) 072-726-9923 (つくば) 029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、
情報料1件につき2,000円を徴収します。



CAS 番号 : 122-14-5

化学名 : 0,0-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート



CAS 番号 : 23564-05-8

化学名 : ジメチル[1,2-フェニレンビス(イミノカルボノチオイル)]ビス[カーバメート]